

平成 29 年度第 1 回河内長野市上下水道事業経営懇談会の議事概要

開催日 平成 29 年 7 月 21 日金曜日

午前 9 時 30 分から午前 11 時 45 分まで

開催場所 河内長野市役所 602 会議室

出席委員 笠原座長 武田座長職務代理者

佐藤委員 越仲委員 中田委員 吉崎委員 （全員出席）

議事概要

1. 会議の公開・非公開について

公開と決定

2. 上下水道ビジョン及び経営戦略の策定について

上下水道ビジョン及び経営戦略の策定にかかる検討の方向性について

《水道事業》

- 平成 42 年度の大阪広域水道企業団第二分岐からの受水について、水道施設整備計画を見直し、今回の検討に含める。
- 計画給水量に対して一日最大給水量が 8 割である。施設能力が過大であれば施設を見直すことで、維持管理コストが減少するのではないか。
- 管路及び施設の改築・更新の優先度について、わかり易く示してほしい。
- 施設のダウンサイジングするために必要だからお金はいくらでも支出するというのではない。財源を踏まえ、どのような事業をどこまで実施するか判断をビジョンや経営戦略で示す必要がある。場合によっては、市民に我慢をしてもらわないといけないこともあり得る旨を示してほしい。
- 市の公共サービスを民間委託した場合にそれを評価できる職員が必要となるため、バランスの良い職員配置とする必要がある。コストカットの一環で採用抑制していること等の身を切るコスト削減を示したうえで、既にかなり頑張っていることを示してほしい。
- 管路の更新のペースが重要であるが、現状だと 100 年以上かかる見通しである。今後どのように更新をすすめるのか示す必要がある。
- 「安全」の議論が水源に関することに偏っている。水を浄化した後、劣化させずに末端まで送ることが今後重要になるので、この視点を水道ビジョンの項目として追加願いたい。周辺の事業体との連携（安全確保のため）の視点も入れ込むべき。

《下水道事業》

- 管路及び施設の改築・更新の優先度について、わかり易く示してほしい。
- 管路ストックに対し、改築に係る投資額の考え方を示してほしい。
- 不明水が少なくなると狭山水みらいセンターの処理水量が少なくなるため、維持管理費用も減少することとなる。それに応じて河内長野市の負担金が低減するという意図だと思うが、実際不明水対策を実施することにより、どの程度負担金の削減につながるのか示してほしい。
- 官庁会計では黒字であったが、企業会計では急に赤字になったことに対する説明や提示をすべきである。また、汚水は使用者負担、雨水は公的負担という仕組みや、収益的・資本的収支という区分の説明は、難しい言語を使用しない資料作りが必要である。最終的には難しい言葉を使いすぎず市民の理解を得ることができる説明をしないと、職員の努力を理解していただけない。
- 将来を予測し計画を立て、ここまで経費削減といった事業に取り組んでいるが、ある程度お金をかけないとリスクが高くなるというデメリットについても説明が必要である。
- 汚水事業について、整備拡充のみ記載されているが、末端の小規模の集落では、下水道事業から浄化槽への変更の可能性について、明記すべきである。
- 包括民間委託を管路で実施しているのは全国的にも珍しく、その業務の範囲（民間と市の担当区分）がわかる資料を次回示してほしい。